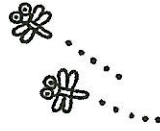


ならの木便り

## 移動動物園・運動会についての園の考え方



24日から始まった夏期登園、例年ならプールで思い切り楽しむ時期なのに、熱中症を心配して教室から出られなかった子ども達でした。そのような日々、8月の27日の朝は久しぶりで曇り空になりました。これは外遊びのチャンスでした。僅か30分くらいの間でしたけれど、登園してきた順に外遊びを許された子ども達、そのはしゃぎようは、見ている私たちも心が弾むようでした。

思い切り駆け回る子、裸足になって砂場で砂遊びをする子、フラフープを上手に回す子、長縄跳びをグループで楽しむ子、スクーターに乗って地面を蹴る子、ブランコを楽しむ子、庭全体が活気に溢れて子ども達の姿が輝いて見えました。

28日の朝も少しだけ外遊びを行いました。よく晴れて暑い日でしたが、そんなことは気にもしないで、子ども達は自分の遊びに夢中になっておりました。子ども達は、空の下で思い切り遊んでいる姿が一番似合います。

いつまで続くのか先の見えないコロナウイルス、どんなに暑くてもマスクをつけたままで過ごす日々です。外遊びは3密に該当しない時間です。この時間は、熱中症の心配もあるのでマスクをさせないで遊ばせてますが、この件については、保護者の方々のご理解をお願いいたします。ただし、どうしても心配なご家庭は、マスクを付けさせることを担任に話しておいて下さい。

どうすることもできない毎日のこの環境、マスクひとつ取ってみても、私たち大人は自分なりに調整していけますが、その状況によってどうしたら良いかを決められない子ども達にとっては、どれだけ過酷な状況なのでしょう。新薬の開発はまだ先が見えません。そのようななかで、子ども達の体力の低下やストレスがとても心配です。

子ども達の体力やストレスの低下が心配されるなかで、園としては感染のリスクを考慮して、全ての行事を中止することも選択のひとつです。

あるいは、感染のリスクを極力避けながらも、3密に該当せずに行える行事はなるべく行う方向で取り組んで行くか、どちらかを選択しなければなりません。

移動動物園、運動会などは屋外での行事です。この二つの行事の開催を考えたとき、移動動物園については、現在、動物たちは飼育員以外の人との接触はない事、飼育員も感染しないように細かい注意を払って行動していること、園でも人との接触が近くなるようにして、消毒を徹底するような予防策をとります。

運動会は、例年のように当麻田小学校の校庭をお借りできるように手配しております。幸いにして、新町幼稚園は少人数の幼稚園です。広い校庭で、お互いに接触を極力避けながら子ども達に思い切り活躍できるところを、そして、それをご家族の皆さんと楽しみ、こんなときだからこそ皆で頑張った思い出を残せたらと思います。

園では、子ども達の体力の低下や精神的なストレスの悪影響を心配して、この外の行事は開催することにいたしました。

感染して重症化するのには、お年寄りや病気を抱えている人等、抵抗力の弱い人達と聞いております。その条件を考えれば、まず子ども達の身体に抵抗力をつけることが一番大切です。園では、外に出られない日でも、子ども達に身体を動かすことを工夫しております。ただ、健康作りに何よりも大切な『早寝・早起き・朝ご飯』や、食事はバランスの良いものを心がけることはご家庭にしかできません。できる範囲で、普段以上に心がけて下さるようお願いいたします。

また、外気温と室内気温があまりに差があると、出入りしたときの体内の温度調節に体力を消耗して抵抗力を低めてしまうそうです。

園でも、室内気温は27～28度くらいに設定するように心がけております。部屋の温度を下げすぎないように、この点についても、ご家庭でのご協力をお願いいたします。

先日のこと、用事があって内郷幼稚園に出かけました。緑の山々に四方を囲まれたグラウンド、そこは膝丈の高さの雑草が生えておりました。その上を赤とんぼが群れをなして飛んでおり、雑草に混じって咲いている野の花、春には爛漫に花が咲く1本の桜の大木、紅葉が始まると大きく赤馬が浮き出る山の様子、自然に囲まれた幼稚園、ここに子ども達を連れてきたい、近くに流れる道志の川の緑を散歩させたい。この環境で子ども達の輝く顔がみたいと思いました。

赤とんぼが頭の上を飛び交っている青空の元で、足下のバッタを追いかける、膝元までくる雑草のなかを仲間と追いかけてこをする、野の花をじっと見つめてみる、そんなときの子ども達の顔。コロナがなかったら、今月でも連れて行って遊ばせたい。こういう時期だからでしょうか、久しぶりに行った内郷幼稚園の園庭に立って、そんなことを考えておりました。

一日も早く、そのような日が来ることを願わずにはられません。

園長 浜野和子